

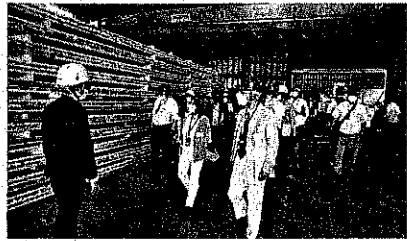
建設トップランナー倶楽部 鹿児島県で視察研修

地方の活力、可能性に期待

建設トップランナー(俱)市)が案内した。

楽部(代表幹事・米田雅子東京工業大学特任教授)は3、5日、初めて鹿児島県内を訪れ、視察研修を行った。幹事会に属する企業等から27人が参加し、注目を集めるCLTの認定工場や地域活性化の拠点施設などを見学。その活力と将来の可能性に期待を寄せた。

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、3年ぶりに実現した視察研修。幹事会メンバーの豊明建設(林正英社長、鹿児島県鹿屋市)と森建設(森義大社長、同



初日は、2020年4月に完成した鹿児島市の鶴丸城御楼門から見学(鹿児島県経済同友会協力)。日本一の高さと規模を誇る城門として147年ぶりに復元されたことを紹介し、民間主導で

整備に至った背景なども伝えた。

大隅半島では、豊明建設を含む共同企業体がF1事業で整備・運営している道の駅たるみずはまびら(たるみずはまびら) (18年11月完成、鹿児島県垂水市)を経由したあと、山佐木材(有馬宏美社長、鹿児島県肝付町)の工場を視察し写真。CLT(直文集成板)のJAS認定を受けた国内有数の工場とあって、その技術力が注目が集まった。

ホテルさつき苑(鹿屋市)では、19年度の建設トップランナーフォーラム(東京都)で事例発表

した森建設グループの取り組みを紹介。国内外での事業展開や経営多角化の取り組みに多くの関心が寄せられた。

米田代表幹事は「鹿児島県がそれぞれの立場で活躍していることに元気をもらった」と話した他、和田章顧問(東京工業大学名誉教授)も「CLTの製造は手づくりの部分も多く、正直驚

いた。ここで生まれた材料が国内外で活用されていることは感慨深い」などと思いを込めた。

2日目は、廃校を利用した体験型宿泊施設「ユクサおおすみ海の学校」や生コン工場が副業で手掛ける旭信興産の野菜工場、農業生産法人オキスの6次産業化の取り組み(いずれも鹿屋市)を紹介。ヤマグチ(鹿児島県

霧島市)は、高温の温泉環境下でシラスコンクリートを初採用して施工した丸尾の滝橋の苦労話も伝えた。

県内幹事として同行した林社長と森社長は「地方の活力を全国に発信するいい機会になった。今後情報交換しながら、さまざまな可能性を見いだしていきたい」と話した。(鹿児島建設新聞)